

片マヒ自立研究会との出会い

山口 正義

私は、大阪府下居住のため、現在、遠隔地会員としてお世話になっています。

私は、森山会長様の不断のご努力に対し、満腔の敬意を表しますとともに、お世話になっています会長様をはじめ、役員の皆様方に心から厚くお礼を申し上げます。

私は、平成元年3月に脳梗塞を発症して3か所の病院で、1年間の入院生活を送りました。

退院して、近くの病院へリハビリに通院しましたが、その病院で同病の先輩から、障害者手帳の話聞いて、その病院で左マヒ2級の障害認定を受けて、大阪府から2級の障害者手帳を交付されました。

平成3年だったと思いますが、当時NHK教育テレビで放映されていたシルバー介護という番組に、森山会長様ご夫妻がご出演されたのを拝見しまして、あるビジネスマンの脳卒中リハビリ成功記『歩けた！手が動いた』を出版されたことを知りました。

私は、深く感動して翌日早速ご自宅にお電話をして奥様にお願いして本を送って頂きました。

その後、会長様が、片マヒ自立研究会を創立して、主宰されるようになり、いろいろと貴重な研究資料を送って頂き、大変勉強になりました。

そのうちに、遠隔地会員として入会させて頂き、引き続きお世話になっています。

私が、今日元気に生きていけるのは、森山会長様に元気とお励ましを頂いているおかげと感謝申し上げます。

片マヒ自立研究会も今年100回を迎えるそうですが、私は恥ずかしながら遠隔地ということに甘えて、一度も出席したことはなく、ご無礼ばかりで申し訳なく思っています。

私は、痙性（けいせい）が強いため、歩き始めると、反射的にマヒ側の左肘が曲がって、会長様がリハビリ成功記に書いておられるように、お化けの手になってしまうので、未だに週三回通院して、リハビリで左肘を伸ばしてもらっています。

しかし、すぐに左の肘が曲がりだし元の木阿弥で苦しんでいます。

医師に相談しても「リハビリで頑張りなさい」と言われるのみで、的確な教示は得られません。

そんなことで、一度研究会に出席させて頂いて、皆様のご指導を頂きたいものと念願しております。

終わりに、研究会の100回記念を慶祝するとともに、今後の研究会の発展と会員の皆様方のご清福を祈念して筆をおきます。

